

♪音楽「広島・土本アコーディオントリオ」と 絵画「埼玉・川越の町を描く」の コラボレーション♪ ぶらり訪問記

2019年3月3日（日）13:00開演 会場：^{れんげいじ}蓮馨寺 主催：NPO 法人あいアイ

ひな祭りの3月3日、あいにくの空模様でしたけれど、お会いするのは2年ぶりとなる広島から上京されるアコ仲間の土本義博さんのライブを聴いてきました。

はじめに（主催者概要）・・・2002年4月 NPO 法人の認可を受け、障害者の創造大学（芸術・音楽・体育専攻）の設立を目指し、埼玉県川越市を拠点に、年齢、性別、国籍、そして障害の有無を問わず創造活動し、その成果を障害者の自立の一助としている。ここでは障害を個性ととらえ、小さな画伯と呼びます。

《第1部》 小さな画伯のパフォーマンス

出演

岩崎壺裕（小さな画伯）お姫様スタイルの磯村みどりさんを描く

100cm×200cm（縦長）の紙にデッサンします。

磯村みどり／お姫様（女優・染色家・脳障害支援のパイロット活動）

青木正臣（小さな画伯）土本義博さんの抱えるアコーディオン（ブルー）を見ながら横長の紙にデッサンします。

土本義博（アコーディオニスト）ブルーのアコーディオンを抱えて座る



◀お姫様スタイルで語りながら動く磯村みどりさんと格闘する岩崎壺裕さん



磯村みどりさん▶

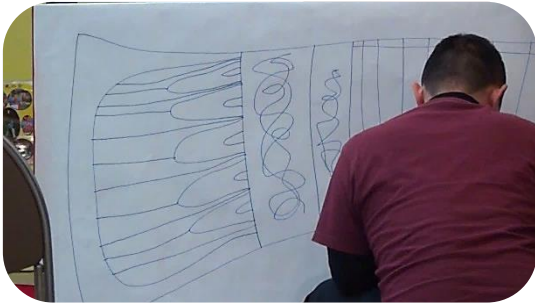


持ち時間30分弱なのでまだデッサンの途中です。このときの様子を写真に撮っておき、それを見ながら更に書き込みを続け色を付け完成させて、4月1日（月）開催の「あいアイパーティー」で展示する予定だそうです。（問合せその他、下記参照）

顔から描き始めたのは、磯村さんを知っているからだそうです。

◀作品を横に笑顔の二人

■「あいアイパーティー」4月1日（月）問：NPO 法人あいアイ 049-277-7872（粟田）
会場：川越やまぶき会館ホール 13:30~15:30 会費：3,000円（障害者割引あり）



一方、ステージ右側で青木正臣さんがブルーのアコーディオンとにらめっこ。
 絵画展「埼玉・川越の町を描く」を兼ねているので、壁の周囲には会員の作品が多数展示。

《第2部》「土本アコーディオントリオ」による演奏

NPO 法人あいアイとの出会い・・・みなさん
 こんにちは、栗田さんとは遡ること4年前、
 私が1枚の新聞記事を温めていました。その
 新聞の記事には、今ちょっとお会いできない
 んですが確か市村恵さんという会員の方が
 いました。その1枚の絵というのが産経新聞
 社と連携した事業だったと思います。なんと、
 アコーディオンの絵が描いてありました。と
 ても穏やかな絵で私がそれを大事に取って
 いました。誰がこの絵を描いたのかなあと
 思いまして訪ねたとき栗田さんがお迎えに
 来ました。それが交流のきっかけです。以来年
 に1回ぐらい栗田さんとうとう顔を合わ
 せていただいております。(自己紹介より)

出演

土本義博 (アコーディオン)

上遠野 忍 (かとおの のぶ/ギター)

浜村陽子 (ギター)



最初にトリオで3曲「コーヒールンバ」「エル・クンパンチェロ」「コンドルは飛んで行く」を演奏。(写真はエル・クンパンチェロ)

次は『ギターソロを一人ぼっちでお届けします。なぜならソロだからです。寂しいのですが頑張って皆さまにお届けします』と、上遠野 忍さんのギターソロ。

「ベッサメムーチョ」この言葉はメキシコのスペイン語です。で、意味をご存知の方いらっしゃいますかとの問いに客席から「たくさん私にキスをしてください」と返ってきました。ベッサ=ほっぺ、メ=私の、ムーチョ=「うんと」「たくさん」等、という意味なので直訳すると「わたし、ほっぺ、いっぱい」ということで、何のことやら。

ラテン語の国に行きますと、簡単に挨拶としてほほにキスをしたりってということが日常の挨拶ですけれども、この場合は非常に切実とした、願いの込められたベッサメムーチョでございまして、世の中ではロマンチックな曲として知られているけども、実はとても切ない曲だったりしますから詳しくはGoogle 先生に聞いてみてください。今日は「今晚だけでも僕の傍にいてください、何故



なら、僕が今晚眠ったら二度と目が覚めないかもしれないから、お願い、今日だけ」そんな歌詞でお届けします。

聴いていて楽しくなったら踊るスペースは少々あります。気持ちよくてうとうとしてしまった方はどうぞお眠りください。生演奏で眠れるなんて

贅沢なことは人生で何度もないと思います。
(上遠野 忍さんのコメントより)歯切れの良い素敵な演奏でした。

進行役、土本さんのコメント・・・今日は歌詞を用意していませんでしたけれども、音を聴くって言うことですね。心臓、ハート、ギターの音を聴きましたけれども、その心を聴いているわけですね。次は少し甘い曲



「スイート・アンド・ラブリー」と「君ほほえめば」の2曲聴いていただきます。これは1940年代から50年代のアメリカのオールラブソングです。

次はアコーディオンソロで、是非今日の皆さんに聴いていただきたい曲として選んだ「バラ色の人生」を聴いてください。とデッサンで使ったブルーの楽器で演奏。



次に、これも是非栗田さん、会員の皆さんが空の星のようにきらきら輝いて欲しいという願いを込めて選びました「一人で星の上に」。

そして最後はこれを歌わないと終わりにならないので大きな声でフィナーレになるように歌いましょうと「365日の紙飛行機」をみんなで合唱。

絵の仕上がりを4月1日観に行きたくなりました。

(文責：乙津)

終わりのあいさつ

あいアイ美術館館長 栗田千恵子さん



広島泉美術館で「仮設住宅に1枚の絵を」というイベントをやっております。月日経って来ると心が大切になってくるんです。そこで作

っているのがこの川越の町の絵です(右、時の鐘の絵を例に説明)原画はみんなが描いた絵ですけど、これはキャンバス地に焼き付けたデジタルアートです。仮設住宅は結露がすごいので絵を差し上げても湿気でダメになってしまうということでした。

こういう形で、一番最初は3.11の後岩

手県から始めました。広島は以前、3人が選ばれて泉美術館で展覧会をさせて頂きました。そのときに広島出身の東ちづるさんが非常に喜んで



くださって、今年広島で大きなイベントを組むと思います。あいアイ美術館の子どもたちは皆さんのご支援、それも本当のご支援がないと駄目なんです。良くなかったら「なにこれ」って言って下さい、でもいいと思ったら「すごい色だね」「この形おもしろいね」って褒めて下さい。よろしくお願い致します。